

「めざそう値」の達成度等の点検評価

「那覇市立図書館」運営の基本的な考え方の点検評価基準（別紙3）に基づき、「施策（事務事業）の進行管理チェックシート」（別紙4-（1）（2）参照）を活用して、「めざそう（目標）値」の評価の観点ごとに点数を付し評価を行う。

昨年度からの新型コロナウイルス感染症の感染拡大により今年度的那覇市立図書館協議会は書面による開催となり、評価に対する協議が十分に実施できないため外部評価は実施せず、「めざそう（目標）値」評価の観点ごとの点数・コメントを付し内部評価した。

点検評価事務事業（2020年度分）

課 題	施策名	事務事業名	指標名
I-1 利用者サービスの充実	I-1-(1) 資料・情報提供サービスの充実	1. 資料・情報提供サービスの推進	①来館者数（来館率） ②レファレンス（調査相談）件数
I-2 青少年に対するサービスの充実	I-2-(1) 中学生・高校生の読書活動の充実	2. 中学生・高校生の読書活動の推進	③中学生・高校生向けの企画実施件数
I-3 障がい者サービスの充実	I-3-(1) 障がい者サービス用資料の充実	3. 障がい者サービス用資料の貸出しの推進	④デージー図書貸出数 ⑤大活字本貸出数 ⑥朗読CD貸出数
II-1 多種多様な市民ニーズに対応できる人材の採用・育成	II-1-(1) 図書館職員研修の充実	4. 図書館職員研修の実施及び各種研修への参加	⑦研修会への参加人数（参加件数）
	II-1-(2) 図書館職員体制の充実	5. 図書館職員体制強化の推進	⑧職員の司書有資格者数
IV-1 読書推進のための学習機会の充実	IV-1-(2) 職場体験等（小中高）の受入	8. 職場体験等（小中高）の受入の推進	⑨職場体験等（小中高）の受入件数

施策（事務事業）の進捗管理チェックシート ①②

点検評価の対象年度	2020 年度	別紙 4-(1)	
課 題	I-I 利用者サービスの充実	主管	教育委員会
施 策 名	I-I-(1) 資料・情報提供サービスの充実	部課	生涯学習部 中央図書館
事務事業名	1. 資料・情報提供サービスの推進		

施策 (事務事業)	施策の概要等	公共図書館における利用者サービスを充実させるため、図書館奉仕の基本的なサービスである資料・情報提供サービスを推進する。
		関係法令等 ○図書館法 〈第3条第1項第1号〉 郷土資料、地方行政資料、美術品、レコード及びフィルムの収集にも十分留意して、図書、記録、視聴覚教育の資料その他必要な資料(電磁的記録(電子的方式、磁気的方式その他人の知覚によっては認識することができない方式で作られた記録を含む。以下「図書館資料」という。)を収集し、一般公衆の利用に供すること。 〈第3条第1項第3号〉 図書館の職員が図書館資料について十分な知識を持ち、その利用のための相談に応ずるようにすること。 ○図書館の設置及び運営上の望ましい基準(平成24年文部科学省告示第172号) 第二(公立図書館)一(市町村立図書館)3(図書館サービス) (一)貸出サービス等 市町村立図書館は、貸出サービスの充実を図るとともに、予約制度や複写サービス等の運用により利用者の多様な資料要求に的確に応えるよう努めるものとする。 (二)情報サービス ① 市町村立図書館は、インターネット等や商用データベース等の活用にも留意しつつ、利用者の求めに応じ、資料の提供・紹介及び情報の提示等を行うレファレンスサービスの充実・高度化に努めるものとする。 ② 市町村立図書館は、図書館の利用案内、テーマ別の資料案内、資料検索システムの供用等のサービスの充実を努めるものとする。 ③ 市町村立図書館は、利用者がインターネット等の利用により外部の情報にアクセスできる環境の提供、利用者の求めに応じ、求める資料・情報にアクセスできる地域内外の機関等を紹介するレフェラルサービスの実施に努めるものとする。

実際の成果・効果等	新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のための4・5・8月の臨時休館や入館制限期間の影響で、特に4月～9月の来館者数が著しく減っており、全体で前年度実績の62.7%、目標値の52.6%にとどまった。レファレンス件数は前年度実績の67.4%、目標値の40.0%となった。
-----------	--

事業に要した経費	2020年度の図書館に関する決算額(正規職員の人件費を除く)……………162,378千円 うち図書資料費……………29,689千円 【新聞・雑誌等】……………6,183千円 【一般・児童・郷土・視聴覚資料】23,506千円 うち図書館コンピュータシステム経費……………15,074千円
----------	---

指標名・実績値	指標名	目標値	実績値	前年度実績値	指標名	目標値	実績値	前年度実績値
	① 来館者数 (来館率)	475,300 (1.49)	250,228 (0.78)	398,773 (1.24)	② レファレンス (調査相談) 件数	1,620	648	961

※来館率：市民一人当たり来館した回数

点検評価 (内部)	評価の観点	評価	総合 評価	内部評価コメント
	達成度	2	C	来館者数、レファレンス件数ともに目標値に達せず、前年度実績値も下回った。新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため市立図書館を全館臨時休館している期間があり、その影響が大きいと考えられる。またコロナ禍において利用者の来館自粛も要因の一つと考えられる。
	今後の方向性	4		昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響が続いており、来館者数やレファレンス数の回復は見込めない予想である。臨時休館中も継続して電話や文書等でのレファレンスの受付・回答を行っており、今後も休館中であっても図書館が行っているサービスの周知に努めていく。

施策（事務事業）の進捗管理チェックシート ③

点検評価の対象年度		2020 年度		別紙 4-(1)	
課 題		I-2 青少年に対するサービスの充実		主管	教育委員会
施 策 名		I-2-(1) 中学生・高校生の読書活動の充実		部課	生涯学習部 中央図書館
事務事業名		2. 中学生・高校生の読書活動の推進			
施策 (事務事業)	施策の概要等	スマートフォンやインターネットの普及に伴い、中学生・高校生のヤングアダルト層の公共図書館離れが深刻になりつつあるなかで、活字に触れる機会を増やすとともに本を読む楽しさを再確認してもらえよう、中学生・高校生の読書活動の充実を図る。			
		関係法令等 ○図書館の設置及び運営上の望ましい基準(平成 24 年文部科学省告示第 172 号) 第二(公立図書館)一(市町村立図書館)3(図書館サービス) (四)利用者に対応したサービス ア(児童・青少年に対するサービス) 児童・青少年用図書の整備・提供、児童・青少年の読書活動を促進するための読み聞かせ等の実施、その保護者等を対象とした講座・展示会の実施、学校等の教育施設等との連携			
実際の成果・効果等		作家エドワードゴーリー氏の没後 20 周年企画として YA 絵本の展示企画を実施(小祿南図書館)。首里中学校の生徒が授業で作成した本の POP を「本のおすすめ POP 展示します!!」と題して展示及び紹介本の展示(首里図書館)。上山中学校読書月間 POP コンテスト優秀作品の展示及び紹介本の展示と貸出(若狭図書館)。秋の読書週間企画として、館内募集のほか神原中・真和志中・鏡原中・寄宮中に依頼し、YA(ヤングアダルト)図書関連のイラスト及びポップの募集を企画したが応募はなかった(中央図書館)。 中学生とその保護者とみられる親子で展示コーナーをのぞく場面がみられ家族での利用促進に繋がり図書館に足を運ぶきっかけとなることができた。			
事業に要した経費		図書館運営事業の行事用消耗品費			
値・実績値	指標名・目標	指標名	目標値	実績値	前年度実績値
	③ 中学生・高校生向けの企画実施件数		3	4	-
点検評価 (内部)	評価の観点	評価	総合評価	内部評価コメント	
	達成度	5	A	実績値が目標値に達した。 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため市立図書館を全館臨時休館している期間が夏休み期間と重なったため、中学生・高校生向けの夏休み企画を実施することができなかった。秋の読書週間等と関連づけて、近隣の中学校と連携した取り組みを各館で実施した。	
	今後の方向性	4		年間を通して様々な機会をとらえ、中学生・高校生向けの企画を行い、青少年に対する図書館サービスの充実に努めていく。	

施策（事務事業）の進捗管理チェックシート ④⑤⑥

点検評価の対象年度		2020 年度		別紙 4-(1)				
課 題		I-3 障がい者サービスの充実		主管		教育委員会		
施 策 名		I-3-(1) 障がい者サービス用資料の充実		部 課		生涯学習部 中央図書館		
事務事業名		3. 障がい者サービス用資料の貸出の推進						
施策 (事務事業)	施策の概要等		障がいのある方等へのサービスを充実させるため、デージー図書（文字・音声・画像を再生できる電子図書）や大活字本・朗読 CD 等資料の充実を図る。 期待される効果として ①障がいのある方々に読書の楽しみを広げていくことができる。 ②視覚障がいのある方のみならず、学習障がいや知的障がいのある方等にも活用することができる。 ③文化・情報面のバリアフリー化を推進することができる。 関係法令等 ○図書館の設置及び運営上の望ましい基準(平成 24 年文部科学省告示第 172 号) 第二（公立図書館）－（市町村立図書館）3（図書館サービス） （四）利用者に対応したサービス ウ（障害者に対するサービス） 点字資料、大活字本、録音資料、手話や字幕入りの映像資料等の整備・提供、手話・筆談等によるコミュニケーションの確保、図書館利用の際の介助、図書館資料等の代読サービスの実施					
	実際の成果・効果等		デージー図書は前年度実績の 110%、目標値の 165%。大活字本と朗読 CD は年度途中で新規に区分設定したため前年度実績はないが、大活字本が目標値の 104.4%、朗読 CD が目標値の 245.5%と各指標とも目標値を大きく上回った。 大活字本は中央図書館と石嶺図書館の貸出が圧倒的に多く、デージー図書と朗読 CD の貸出は中央図書館がほとんどである。					
事業に要した経費		図書資料費……………29,689 千円 【視聴覚資料】……………1,422,290 円 （デージー図書）……………10,000 円（25 件） （朗読 CD）……………47,960 円（7 件） （大活字本）……………253,805 円（83 件・一般）						
指標名・実績値	指標名	目標値	実績値	前年度 実績値	指標名	目標値	実績値	前年度 実績値
	④ デージー図書貸出数	20	33	30	⑥ 朗読 CD 貸出数	200	491	-
	⑤ 大活字本貸出数	1,500	1,566	-				
点検評価 (内部)	評価の観点	評価	総合 評価	内部評価コメント				
	達成度	5	A	3つの指標すべてにおいて目標値を達成した。「朗読 CD 貸出数」は目標値を大きく上回った。(指標設定の 2019 年度時に、月 10～15 本の貸出数を見込み、年間貸出数を 200 本と設定。朗読 CD の貸出数はシステムで抽出することができていなかったが、指標設定のため 2019 年 11 月から抽出できるよう設定したため見込みでの目標値設定となった。)				
	今後の方向性	4		デージー図書を所蔵している中央図書館では昨年度 4 カ月間、デージー図書の紹介の展示・特集を行い、利用者の目に留まるようにしたところ、利用者の関心を高めるきっかけとなり貸出にもつながった。 今後は全館で特集を組むなどし、デージー図書や大活字本、朗読 CD 等資料の周知を図り、障がいのある方々ばかりでなく、広く市民の方々が障がいについて理解を深める機会を作り、障がい者サービスの充実につなげていく。				

施策（事務事業）の進捗管理チェックシート ⑦

点検評価の対象年度		2020 年度		別紙 4-(1)	
課 題		Ⅱ-1 多種多様な市民ニーズに対応できる人材の採用・育成		主管 部課	教育委員会
施 策 名		Ⅱ-1-(1) 図書館職員研修の充実			生涯学習部 中央図書館
事務事業名		4. 図書館職員研修の実施及び各種研修への参加			
施策（事務事業）	施策の概要等	司書や一般事務職員に対する研修の企画実施及び他団体主催研修への参加促進等、職員への研修等を充実させ、職員の図書館業務の専門的職務遂行能力を高め多種多様な市民ニーズに対応できる人材を育成する。			
		関係法令等 ○図書館の設置及び運営上の望ましい基準(平成 24 年文部科学省告示第 172 号) 第二（公立図書館）一（市町村立図書館）4（職員） （二）職員の研修 ① 市町村立図書館は、司書及び司書補その他の職員の資質・能力の向上を図るため、情報化・国際化の進展等に留意しつつ、これらの職員に対する継続的・計画的な研修の実施等に努めるものとする。 ② 市町村教育委員会は、市町村立図書館の館長その他の職員の資質・能力の向上を図るため、各種研修機会の拡充に努めるとともに、文部科学大臣及び都道府県教育委員会等が主催する研修その他必要な研修にこれら職員を参加させるよう努めるものとする。			
実際の成果・効果等		新型コロナウイルス感染症感染拡大により対面による研修会の開催なし。新任職員研修資料データの配付。また、他団体主催 web 研修に各自積極的に参加し、図書館職員としての資質・能力を向上させた。			
事業に要した経費		主催研修なし、WEB 研修受講のため要した経費なし。			
指標名・目標値・実績値		指標名	目標値	実績値	前年度実績値
		⑦ 研修会への参加人数（参加件数）	90（12）	72（26）	98（15）
点検評価（内部）	評価の観点	評価	総合評価	内部評価コメント	
	達成度	2	B	目標値を下回った。新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため対面による主催研修や外部研修が中止となった。市主催の新任職員研修はテキストによる分館・自主研修とし、オンラインによる外部団体主催研修や国立国会図書館遠隔研修など各自が自主的に受講し、市民ニーズに対応するための能力や知識、専門的職務遂行能力を高めた。	
	今後の方向性	5		新型コロナウイルス感染症感染拡大における社会環境の変化にも対応するため、対面による研修のほかオンライン等研修方法を工夫し、質の高い図書館サービスを提供するため計画的な研修を実施し、他団体主催の研修へも積極的な参加を促していく。	

施策（事務事業）の進捗管理チェックシート ⑧

点検評価の対象年度		2020 年度		別紙 4-(1)		
課 題		Ⅱ-1 多種多様な市民ニーズに対応できる人材の採用・育成		主管 部課	教育委員会	
施 策 名		Ⅱ-1-(2) 図書館職員体制の充実			生涯学習部 中央図書館	
事務事業名		5. 図書館職員体制強化の推進				
施策 (事務事業)	施策の概要等	専門職である司書を配置し、管理運営及び職員体制の充実を図ることで、多種多様な市民ニーズに対応できる人材を育成する。				
		関係法令等 ○図書館法 第四条 図書館に置かれる専門的職員を司書及び司書補と称する。 2 司書は、図書館の専門的事務に従事する。 3 司書補は、司書の職務を助ける。 ○図書館の設置及び運営上の望ましい基準(平成 24 年文部科学省告示第 172 号) 第二(公立図書館)一(市町村立図書館)4(職員) (一)職員の配置 ②市町村教育委員会は、市町村立図書館が専門的なサービスを実施するために必要な数の司書及び司書補を確保するよう、その積極的な採用及び処遇改善に努めるとともに、これら職員の職務の重要性にかんがみ、その資質・能力の向上を図る観点から、第一の四の②に規定する関係機関等との計画的な人事交流(複数の市町村又は都道府県の機関等との広域的な人事交流を含む。)に努めるものとする。				
実際の成果・効果等		職員(委託職員を除く)73人のうち司書有資格者数は47人で、全体の64.4%であった。人事異動により司書資格をもつ分館長と本務職員がそれぞれ1名配置増になり、在職中の本務職員1名が年度内に司書資格を取得した。司書による専門的な知識・技術に基づく指導助言を得ることで、職員の資質・能力の向上が図られた。				
事業に要した経費		本務職員において一般事務職と司書職は同給料表が適用されるため、司書職の配置において事務職と比べて特別な経費は発生しない。令和2年度より会計年度任用職員制度の導入により期末手当が支給されるようになった。				
指標名・目標値・実績値		指標名		目標値	実績値	前年度実績値
		⑧ 職員の司書有資格者数		43	47	43
点検評価 (内部)	評価の観点	評価	総合評価	内部評価コメント		
	達成度	5	A	実績値が目標値に達した。		
	今後の方向性	4		継続して司書を配置し図書館職員体制を維持する。専門的な知識・技術を発揮し、職員の育成・図書館サービスの充実を図る。司書有資格者配置の要望を行っていく。		

施策（事務事業）の進捗管理チェックシート ⑨

点検評価の対象年度		2020 年度		別紙 4-(1)		
課 題		IV-I 読書推進のための学習機会の充実		主管 部 課	教育委員会	
施 策 名		IV-I-(2) 職場体験等（小中高）の受入			生涯学習部 中央図書館	
事務事業名		8. 職場体験等（小中高）の受入の推進				
施策（事務事業）	施策の概要等	公共図書館の果たす役割や業務内容を広く理解してもらうため、また子どもの読書活動を継続的に推進するため職場体験の受入を実施する。 関係法令等 ○図書館の設置及び運営上の望ましい基準(平成 24 年文部科学省告示第 172 号) 第二（公立図書館）一（市町村立図書館）3（図書館サービス） （四）利用者に対応したサービス ア（児童・青少年に対するサービス） 児童・青少年用図書の整備・提供、児童・青少年の読書活動を促進するための読み聞かせ等の実施、その保護者等を対象とした講座・展示会の実施、学校等の教育施設等との連携 （五）多様な学習機会の提供 ① 市町村立図書館は、利用者及び住民の自主的・自発的な学習活動を支援するため、講座、相談会、資料展示会等を主催し、又は関係行政機関、学校、他の社会教育施設、民間の関係団体等と共催して多様な学習機会の提供に努めるとともに、学習活動のための施設・設備の供用、資料の提供等を通じ、その活動環境の整備に努めるものとする。				
		職場体験は牧志駅前ほしぞら図書館で 1 件、施設見学は 7 館で 9 校の受入があった。 密を避けるため見学する人数を通常の半分にして、対応する職員も増やすなど滞在時間を減らすよう工夫をした。 また、学校側から写真パネル展(那覇の世界遺産)見学の要望を受け、一時的に図書館からホールに設置場所を移動し感染防止策を施した。ほかに、学校側からの要望でパワーポイントを活用しながら施設紹介の動画を作成し、学校へ提供した。 コロナ禍で申込は少なかったが、実施方法を工夫することで図書館業務の周知を行うことができた。				
事業に要した経費		事業に要した経費なし				
指標名・目標値・実績値		指標名		目標値	実績値	前年度実績値
		⑨ 職場体験等（小中高）の受入件数		60	10	-
点検評価（内部）	評価の観点	評価	総合評価	内部評価コメント		
	達成度	2	C	目標値を大きく下回った。2020 年度は新型コロナウイルス感染症の影響で職場体験の申し出が例年に比べて少なかった。また、市立図書館全館の臨時休館や学校の臨時休校期間もあり、感染状況を見ながら学校の行事を行っていた状況であったので図書館の施設見学の申込も少なかった。		
	今後の方向性	4		昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響が予想されるが、コロナの状況が落ち着いたら、職場体験等を積極的に受け入れし、児童生徒に公共図書館の果たす役割や業務内容を広く理解してもらう機会の提供に努める。		

2020 年度「めざそう値」の達成度等の点検評価

那覇市のまちづくりの基本構想として策定された「第 4 次那覇市総合計画」の施策のひとつである「どこでも誰でも生涯学習ができるまちをつくる」の実現に向け、2010 年 10 月 22 日に「那覇市立図書館」運営の基本的な考え方（進行管理期間 2010 年度～2014 年度）を策定した。

2010 年度からは、指標・めざそう値の達成度等の点検評価を実施している。

2015 年度に 2015 年度から 2019 年度までの、2020 年に 2020 年度から 2024 年度までの指標とめざそう値を新たに設定した。達成度等の点検評価は 2018 年度までに 9 回実施している。

2020 年からの新型コロナウイルス感染症感染拡大により、2019・2020 年度の外部評価が実施できず内部評価にとどまった。

【2020 年度内部評価の概要】

2020 年度事業の内部評価において、A 評価が 3 項目、B 評価が 1 項目、C 評価が 2 項目であった。

ともに C 評価だった施策は「Ⅰ-Ⅰ-(1)資料・情報提供サービスの充実」「Ⅳ-Ⅰ(2)職場体験（小中高）の受入件数」であった。評価基準に基づく評価点の平均は、「達成度」が 3.5 点、「今後の方向性」が 4.17 点となった。めざそう値を達成した指標は 5、未達成は 4 つであった。

<総合評価一覧>

事務事業名	内部評価
資料・情報提供サービスの推進	C
中学生・高校生の読書活動の推進	A
障がい者サービス用資料の貸出の推進	A
図書館職員研修の実施及び各種研修への参加	B
図書館職員体制強化の推進	A
職場体験等（小中高）の受入推進	C